

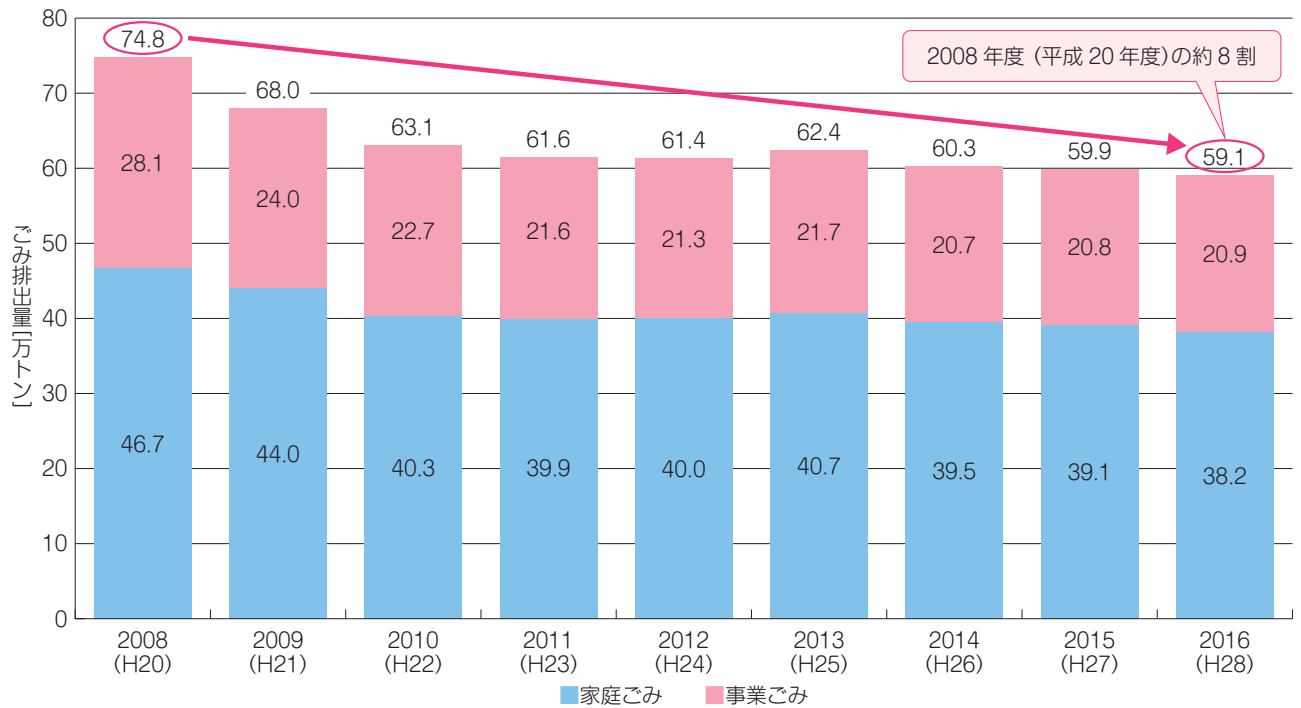
# 第3章

## 札幌市のごみ処理の現状と課題

### ❖ ごみ量

- ◆ 廃棄ごみと資源物を合わせた「ごみ排出量」は、2016年度(平成28年度)に59.1万トン。2008年度(平成20年度)の約8割まで減少。
- ◆ 事業ごみは2014年度(平成26年度)に最少となったが、その後は横ばいで推移。

#### ● ごみ排出量の推移 ●



#### 循環型社会の実現に向けて

天然資源の消費をできる限り抑えることが重要



資源物を含めたごみ排出量の減量を進めることが必要

## ❖ 家庭ごみの組成

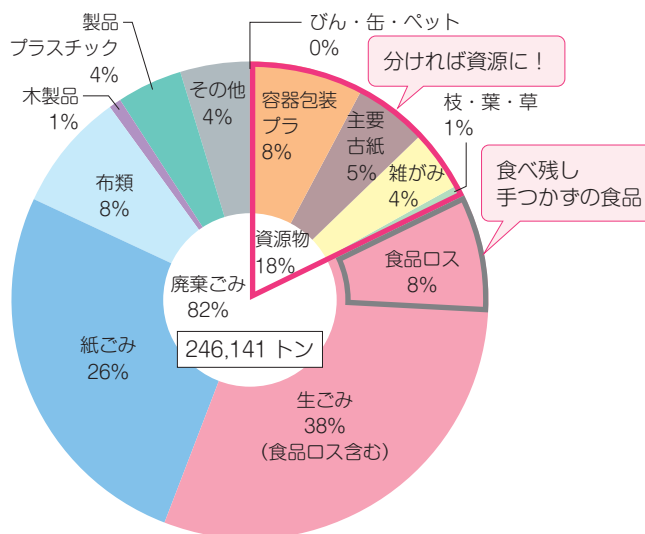
### 【燃やせるごみ】

- ◆ 生ごみが約4割と大きな割合を占める。食品ロスも全体の8%を占める。
- ◆ 容器包装プラスチックや紙類等の資源物が合わせて18%含まれる。

◆ 引き続き生ごみの減量、資源物の適正排出に向けた取組が必要

### ● 燃やせるごみの組成 ●

[2016年度(平成28年度)]



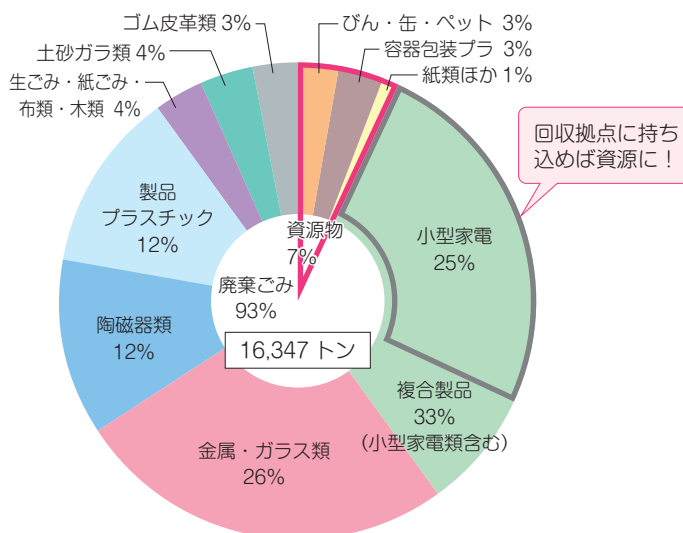
### 【燃やせないごみ】

- ◆ 複合製品(小型家電や電池など)が約3割を占める。そのうち約7割は小型家電が占める。

◆ 小型家電は、回収拠点に持ち込めば無料で回収されてリサイクルされるため、小型家電リサイクルを促進

### ● 燃やせないごみの組成 ●

[2016年度(平成28年度)]

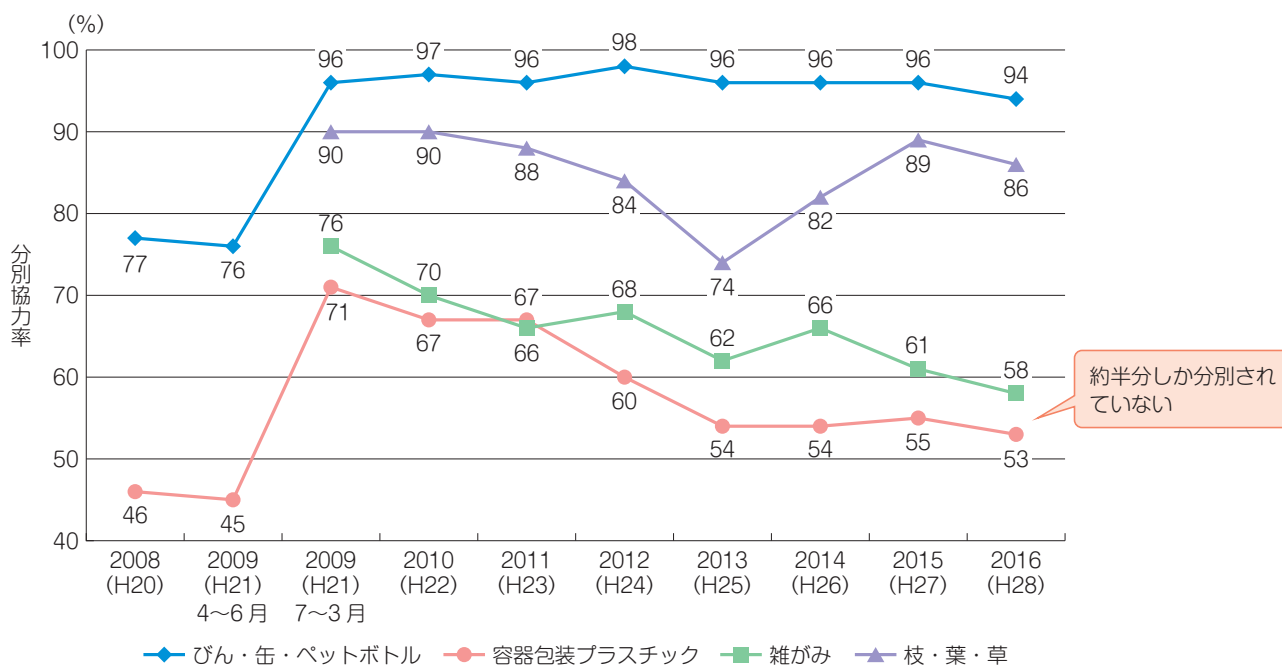


## ❖ 家庭ごみの分別協力率

- ◆ 「びん・缶・ペットボトル」が95%前後の高い値で推移。
- ◆ 「雑がみ」や「容器包装プラスチック」の協力率は60%を割り込んでいる状況。

◆ 「雑がみ」や「容器包装プラスチック」の適正排出に向けたより一層の取組が必要

### ● 分別協力率の推移 ●



### ● 札幌市ごみ減量キャラクター さっぽろミーゴス ●



## ❖ 札幌市のごみ処理の課題

### ★ 2R を優先した 3R の促進★

- ◆ 循環型社会の実現に向けては、限りある資源を有効利用するため、ごみの減量につながる 2R の取組をより一層推進し、資源物を含めたごみ全体を減量することが必要です。
- ◆ また、2R の取組を優先した上で、その後に排出されるごみについては、適正排出や拠点回収の促進などによる、更なるリサイクルの取組を進める必要があります。

### ★ 事業ごみの減量とリサイクル★

- ◆ 事業ごみ量は、ここ数年横ばいで推移していますが、事業者のごみ減量・リサイクルへの取組が促進されるよう、事業者に対する働きかけをより一層強化し、事業ごみの減量につなげていく必要があります。

### ★ 超高齢社会への対応★

- ◆ 今後、進行が予想される高齢化社会を見据え、ごみの分別や排出が困難になる高齢者の支援、家の中を整理する際の大量のごみ問題に対応するため、高齢になっても誰もが安心してごみ出しができる仕組みづくりを進めていく必要があります。

### ★ 市民・事業者・行政の協働★

- ◆ 今後も更なる環境負荷の低減を図るため、市民や事業者との協働により、3R の取組を一層推進する必要があることから、札幌市が中心となり、市民や事業者が自主的にごみの減量・リサイクルに取り組むことができるような環境づくりを進める必要があります。

### ★ 大規模災害に備えた廃棄物処理★

- ◆ 大規模災害発生時には、市民生活に必要な廃棄物処理体制を速やかに確保するとともに、災害発生前の状態に向けて一日も早く回復していけるよう体制の整備を行う必要があります。